

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000317		
法人名	有限会社 松井		
事業所名	グループホームレジデンスポピー (1階ポピー)		
所在地	小樽市入船4丁目22番3号		
自己評価作成日	平成 29年1月23日	評価結果市町村受理日	平成 29年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigvosvoCd=0172000317-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=0172000317-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成29年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の病態、多様な個性と、行動心理症状が発現しないよう認知症の理解に努めアセスメントをしっかり行いケアプランを作成し個別援助によるニーズに応え介護サービスの提供を行っている。また、職員には、介護過程、認知症の理解、介護技術の一つ上の技術を学ぶことができケアにすぐに反映できるよう、内部研修の充実を図っており、利用者が安心して生活が送れるように日々職員は自己研鑽し質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市内の入船地区にある2階建ての事業所で、2階のリビングから四季折々に変化する天狗山を眺望できる。共用空間は明るく清潔感があり、温度、湿度も適正に管理され、職員は利用者に常に話しかけ家族のような関係を築き、利用者はゆったりとした時間の中で、「ニシシ漬」を作ったり出来る事を行いながら笑顔で過ごしている。地域での生活を大切に、地域の一員として町内会に加入し、掃除、草刈など町内会活動にも積極的に参加し、事業所の行事(バーベキューパーティ・収穫祭等)には地域住民や家族に参加を呼びかけ交流を深めている。年数回、幼稚園児の訪問があり利用者の楽しみのひとつになっている。管理者は職員に外部研修や内部研修の参加を促し結果を共有してケアの質の向上に努めている。利用者の外出支援にも積極的に取り組み、海、山、馴染みの場所やお花見など、年間行事計画を立て支援している。職員は明るく親切で、利用者が「地域や自然に触れ合いながら、家庭的な環境のもと、温かい雰囲気の中でその人らしい生活ができるよう」実践に努めている。今後さらなる介護支援の取り組みに期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と触れ合い温かい雰囲気の中で生活できるよう意識を持ち、理念の実践に努めている。	事業所理念「地域や自然に触れ合いながら豊かな人間関係を保ち…」という文言があり、地域密着型サービスの理念を各フロアに掲示し、全体会議で日々ケアと理念の実践を確認し、利用者へのサービスに反映させている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所の敬老会やクリスマスパーティー、ひな祭り等諸行事の際に、家族及び地域住民に案内し参加して頂いている。又幼稚園児の慰問もあり、遊戯を見たり一緒に歌をうたって交流を深めている。更に道の悪い冬期以外は地域の理美容室へ行き散髪を行うなど、地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、町会の掃除、草刈や庭の手入れなどに参加し、地域での基盤作りに努めている。年に数回、幼稚園児の訪問があり、利用者は、楽しいひと時をすごしている。事業所の諸行事(敬老会、ひな祭り等)には地域住民の参加がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行いグループホームの役割や事業所内での支援について理解を深めて頂けるよう、地域の人々に向けて情報の発信に努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表、行政職員の参加のもと2ヶ月に1回開催している。内容はホームの運営、報告、避難訓練、意見交換等で、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は年6回開催し、地域包括支援センター職員、利用者家族、町内会役員の参加があり、運営や活動報告、災害訓練、消防署からの助言、反省点の報告をしている。意見交換を交わし、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の集団指導や意見交換に参加し、密に報告、連絡を行っている。	日常的にも随時電話連絡を行い、運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加があり指導・助言を得ている。市関連の研修や会議にも参加し、行政との協力関係強化に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修を通じて拘束について正しい理解を深め、リスクマネジメント委員会を設ける等して定期的に身体拘束をしないケアの周知徹底に取り組んでいる。	外部研修、内部研修を定期的に行い、職員は、身体拘束の弊害を理解している。日中は、施錠せず、利用者一人ひとりを全職員が見守る体制が採られ、声かけにも心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加し、その内容を内部研修で報告する事で高齢者虐待防止法等について全職員で学んでいる。			

グループホームレジデンスポピー（1階ポピー）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実務者研修修了生や初任者研修修了生の教科書をいつでも閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居時及び内容変更の際などは必ず利用者様、ご家族全員に書面と口頭で理解、同意を頂けるまで説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際には困りごとや意見を伺っている。特に面会時には出来る限り会話を交わすよう努め、利用者様の情報を伝えながら不満や要望がないかを聞き取っている。	日常の会話などから利用者の要望などの把握に努め、家族には、広報誌「お便り」とともに利用者の日頃の様子や園児との交流、イベント行事に参加した時の写真を送付している。また、相談事にも答えられる体制を整えて、来訪時には、利用者の情報を伝えながら、要望、意見、困りごとがないか等、聞き取りをして運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1～2回会議を開き、職員の意見、提案を聞き入れ反映させている。	施設長や管理者は話し易い雰囲気を作り、定期的に会議や面談を行いお互いに意見を言い易い関係を築いている。利用者の転倒防止に段差をなくすこと、居間に民謡を流し利用者が口ずさむ等、気づきやアイデアを汲取り運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を開催し、能力評価や適材適所のユニット配置、働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアと力量を把握し、内外の研修を受ける機会を確保したり、職員に積極的に働きながら学ぶ機会を提案し、自己研鑽できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との定期的な勉強会（救命救急研修等）やネットワークづくり、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

グループホームレジデンスポピー（1階ポピー）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始するにあたって、本人が困っている事、不安、要望を何度も面談を行い会話を交わす中から聞き取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始するにあたって、家族等の困っている事、不安、要望を何度も面談し会話を交わす事で聞き取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何度も面談を行う事で必要としている支援を見極め、適切なサービスの提案を行い、本人と家族等に納得して頂けるプラン作成、実施に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の掃除や料理の盛り付け等を一緒に行い、生活を共にする事で暮らしを共有する者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所の行事に協力、参加して頂き積極的に来訪して頂く事で、ホームの活動を理解して頂き、共に本人を支えていく関係を築いている。前回記載したバーベキューパーティーは多くの家族様の協力で実現する事が出来た。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人が来訪したり馴染みの美容室に通う等の環境を提供。ホームに来る前の関係が途切れないよう支援している。	職員は利用者に行き、馴染みの理・美容室や市場、近くの公園に行くなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。利用者の家族、友人が来訪した時は心よりもてなし、ゆっくりと会話ができるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個性を尊重しながら、レクや諸行事で同じ時間を共有したり、職員が間に入りコミュニケーションをとって頂けるよう支援している。		

グループホームレジデンスポピー（1階ポピー）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も近況の報告を受けたり、必要に応じた相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族から生活歴を聞き取り、日々の会話から希望、意向をくみ取りながら実現に向けて努力している。	家族からの聞き取りや、日常生活の会話の中で得た情報や生活シートの情報を職員間で共有し、利用者本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの情報を収集し、これまでの暮らし方を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態等を日々の生活や会話から把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い要望や意見を反映しながら、カンファレンスを開く等して介護計画を作成している。	ケアマネージメントは、かかりつけ医、家族、利用者からの情報意向をもとに、カンファレンスを開き、支援を話し合い、見直し、変更があれば、報告、家族に周知を図り、介護計画を作成し、都度、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別の生活記録に記載し、情報を職員間で共有しながら介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族と話し合いや情報交換を通して、出来る限りニーズに対応し、柔軟な姿勢で支援、サービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を通し、地域との関係を密にして本人の持っている力を活用しながら豊かな暮らしを楽しめるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医を優先。要望があれば受診の際は職員が同行する等し、適切な医療が受けられるよう支援している。協力医による個別の月2回の訪問診療もある。	かかりつけ医は利用者、家族の希望を尊重し、家族や職員が付き添い、本人、家族の意向、希望を踏まえながら、支援できるよう心がけている。利用者の健康状態を把握し、協力医による月2回の訪問診療がある。かかりつけ医との情報を家族と共有している。	

グループホームレジデンスポピー（1階ポピー）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師はいないが、連携医療機関と密に連絡をとり、健康管理、医療面での相談をいつでも出来る体制をとり支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時だけでなく日頃から連携医療機関と連絡を密にして、利用者が入退院の際、迅速かつ最適な治療を安心して行ってもらえるような体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームの方針を家族に説明し、家族、医師との連携を図りながら支援に取り組んでいる。現在、ターミナルケアは行っていないが、重度化時には早い段階で利用者の現状や医師の見解を知らせ、話し合いの中で家族の意思決定を支援している。	重度化については、契約時に事業所ができる範囲を説明して、同意を得ている。重度化時には早い段階で主治医に相談し、家族、医師、関係者と話し合いを行い、方針の共有を図りながら希望に添えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置等、内部研修を積極的に行って常に備えられるよう意識を職員全員が共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成する予定であり、消防署の協力のもと年2回火災避難訓練を実施している。	年2回、消防署の協力・指導のもと訓練を行っている。終了後は、指導、アドバイスを含め、文書化を図り、運営推進会議、内部会議で報告している。大雪など雪害時避難場所への移動方法など、地域住民の協力を依頼している。	緊急自動車の通行経路や防災避難場所の確保を小樽市に報告、申請をして、災害マニュアルを充実させ、雪での災害を想定した訓練ができるよう取り組みを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、利用者様の個性や状況に応じた適切な言葉遣いで、常に敬いの気持ちを持って対応している。	利用者の尊厳を大切と認識し、一人ひとりの個性や状況に応じた接し方を周知、適切な言葉かけに努めている。トイレ、入浴介護時にも利用者の立場になり支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の視点や価値観で物事を判断するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の状況、様子に合わせた生活を支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室でカットできるよう支援している。また行事や外出時にはお化粧や身だしなみのお手伝いを支援している。		

グループホームレジデンスポピー（1階ポピー）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様それぞれの好みや性格を活かしながら、職員と一緒に下ごしらえや後片付けを行って頂いている。	利用者馴染みのうつわ、箸、コップを使い、食事が楽しくできるよう工夫している。メニュー作りも利用者のリクエストに答える事に心がけ、「かじか汁」や「にしん漬け」など、利用者の今出来る能力に合わせ、職員と共に作り上げて、話題にしながら食事を楽しんでいる。外食も楽しみのひとつになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて、栄養バランスや水分摂取量を考え支援を行っている。又、提供される食事はカロリー計算がされバランスの良いメニュー作りを心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて歯磨き、うがい、義歯洗浄を行い、状態に応じて歯科医の訪問診療による磨き方の指導を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な方には声掛けを行う事でできるだけ排泄の失敗やおむつ、パット使用を減らしていくよう取り組んでいる。	排泄チェック表を作成し、利用者の状況を見極め、自立排泄することができるよう、合図や動作を見逃さないよう気をつけながら、トイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。「夜だけおむつをつけて安心したい」との希望も叶え、人格の尊重にも心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便間隔を把握し、適度な運動や水分補給、食事の工夫等で自然排便を促せるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回が基本の入浴だが、できるだけ利用者の希望、要望に添えるよう取り組んでいる。	週2回の入浴を基本とし、気持ち良く、楽しく入浴できる事を目指している。肌の状態に合わせた保湿効果のある入浴剤を使用し、利用者の健康や心理状態を周知しながら、入浴介護を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重し、生活リズムを考慮しながら好きな時間に休んでもらえるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の用法、用量などはすぐに関覧できるようファイルに保管している。また、処方が変わった場合等は経過を記録するなどして症状の変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族との面談を通して趣味や嗜好品を把握し、編み物や塗り絵等個々の能力、得意な事を活かせるよう支援している。		

グループホームレジデンスポピー（1階ポピー）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を伺い予定を立てて外出している。また、天気の良い日は近くの公園に散歩に行ったり、ホーム前のプランターでの野菜づくりは外気浴を兼ねた適度な気分転換となっている。	近くの公園、桜の花見、秋の紅葉、初詣と利用者の要望も踏まえ、外への関心が向く支援を心がけている。毎年、外出予定計画を立て、目標が達成できるよう取り組みをしている。事業所の庭にプランターを置き、近所の方々とトマトや野菜の水やりをしながら、収穫を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る限り個々の希望に添えるよう、一人ひとりの力に応じた支援を行っている。買い物の際には本人がお金を支払う事が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は随時家族に取り次いでいる。また、字を書く事が可能な利用者様は家族への手紙のやり取りも支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員と一緒に作成した季節感あふれる作品や装飾品を飾る事で四季を感じて頂き、居心地の良い空間をつくり出すよう工夫している。	居間は明るく、2階からの景色も、日本海と天狗山が見渡せ季節を感じる事ができる。温度、湿度も適正に管理され、ゆったりとした時間の中で音楽が流れ、季節に合わせたクリスマスツリーやひな人形が飾られているなど、利用者が居心地良く過ごせるよう空間作りを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに大型テレビやソファを設置し、自由に過ごして頂けるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を飾られたり、家で使用していた思い出の品等を持ち込んで頂き、本人が心地良く過ごせるよう支援している。	清掃、整理整頓がされて、常に清潔に保たれている。馴染みの家具やベットを置き、家族の写真も飾られている。部屋前に掛けた名前カードの色合いも利用者の好きな色を聞き、生活しやすい空間作りを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の持っている力を活かし自立した生活を送れるよう支援している。歩行状態が不安定な利用者様には歩行器を用意し、職員の見守りのみで自由に自立した生活が送れるよう支援している。		